

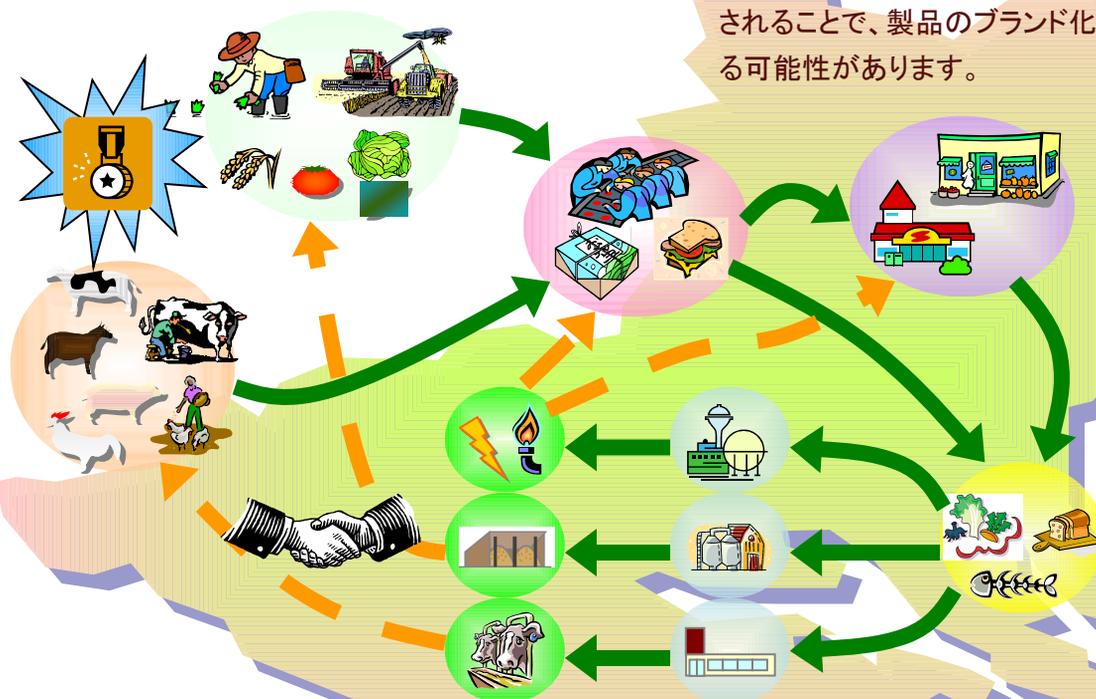
いばらき食品リサイクル研究会

食品循環資源への期待

- 近年、バイオ燃料化が促進されていることに伴って、原料となる穀物の価格が高騰しており、元々の用途である飼料用や食用の穀物価格も上昇し、資源輸入国である日本への影響も大きくなっています。
- 日本は平地が少なく農作物系バイオマスの利用には限界があるので、廃棄物系バイオマスが最も期待できる資源です。
- 特に農業、食品加工業、家庭から出る「食品循環資源」は、鮮度が良ければ飼料として利用できるなど、高い資源価値を有しています。

研究会の概要

- 概要:
 - ◆ (独) 国立環境研究所 特別客員研究員 井上雄三氏の提案により2007年に発足しました。
 - ◆ 食品循環資源に関する情報交換の場であり、食品循環資源のリサイクル事業などを立ち上げることを目的とした研究会です。
- 参加者にとっての利点:
 - ◆ 穀物資源の国際市場や国の政策動向などの最新情報を得ることができます。
 - ◆ 食品循環資源の原料調達元となる関係者や、残渣の処理先となる関係者を見つけることができます。
 - ◆ 食品資源の循環システムを確立し、社会的に認知されることで、製品のブランド化など、付加価値が高まる可能性があります。



茨城での食品循環資源

- 茨城県は、食品関連産業が盛んな地域であり、食品循環資源が大量に発生しています。
- これを有効利用し、廃棄物管理や、原料調達などの物流を確立することができれば、環境を保全するとともに、関係者の経費を削減できる可能性があり、さらに産業の活性化も期待できます。

研究会への参加方法

- 下記連絡先にお問い合わせ下さい。
 - ・研究会事務局 (農) 百姓倶楽部
 - ・担当: 石濱 TEL: 0296-44-0880
 - ・E-mail: nature@cube2003.net
 - ・参加は無料です。お気軽にどうぞ。

■ 会の活動や入会に関する詳細は、ホームページをご覧ください。
<http://www.cube2003.net/~ibaraki/>